

あきう里だより



ミソソバ

アキギンメ

雄花が実になるの??



左の写真のゴツゴツした木の実はしきもの、何だと思われますか・・・それは、マタタビの虫こぶです。マタタビは雌雄異株なので、雄の木には雄花が、雌の木には雌花が咲きます。その雄花の開く直前、花の子房にマタタビアブラムシが卵を産みつけると、花の後、かぼちゃの様な虫こぶになります。この虫こぶが正常などんぐり型の実よりも有効成分が多いのだそうです。有効成分はマタタビ酸、マタタビラクトンなどで、体を温めて、血行をよくし、強心、利尿に効き目があるのだそうです。・・・と言う訳で、マタタビ酒を作ってみました。



(ホワイトリカーと氷砂糖で仕込みました) どんな味がするのか、半年後が楽しみです。この、カボチャ型の虫こぶが出来るのは雄花だけで、雌花に虫が付いたとしても、カボチャ型にはならないそうです。カボチャ型は8月の中旬ごろから落下し始めて、9月の終わりにはほとんど落下してしまいます。(藪をかき分けて、落ちたものを拾いました) どんぐり型は落ちることなく熟して色づきます。じじ様は正常などんぐり型の実を見たことがないと言っていたのですが、今年初めて見つけて、感動していました。70に手の届く歳になって、初めて見たし、カボチャ型の訳も分かったと。でも、不思議なものですよね。雄花だけに虫が付いて、それが実のようになり、しかも薬効が高いなんて・・・(余談ですが、虫こぶには当然虫が入っているので、気にせずそのまま虫ごと潰け込みました。3ヶ月くらいで濾して熟成させます。)

葉巻の木??? 葉巻の木??? 葉巻の木???



杉林の縁のコウゾの木の葉が、全部と言っていいほど、葉巻タバコのようになっていました。さては、葉巻の木?・・・そんなことなどあるはずもなく・・・じゃあ誰が作ったの?? 製作者は「オトシブミ」と言う昆虫でした。春から初夏にかけて、オトシブミの成虫の雌が、クリやクスギなどの葉を巻いて、中に卵を産みつけるのです。オトシブミの種類は30種近くもあるらしく、巻いた後、葉を切り落とすものもあるのだとか。コウゾに揺籃(巻いたもの)を作ったオトシブミは、切り落とさなかったため、そのまま付いていました。オトシブミは葉っぱを巻いて中に卵を一個産みつけます。卵からかえった幼虫は、その中で葉を食べて成長し、蛹になり成虫になると、穴を開けて外に出るのです。このゆりかご(揺籃)は子どもが大人になるまでの食料であり、捕食者から子どもを守る家でもあり、親が残した素敵な贈り物なのです。枯れかかっているものを開いてみたら、葉の半分を食べてあり、もぬけの殻でした。人間の知恵など足下にも及ばないすごい知恵だと思いませんか・・・脱帽です。